

論文審査の結果の要旨

氏名：劉麗鳳

博士の専攻分野の名称：博士（教育学）

論文題名：中国農村中学校の中退に関する社会学的研究—教育と社会的不平等の再生産過程に注目して—

審査委員：（主査）教授 広田照幸

（副査）教授 小野雅章

教授 望月由起

早稲田大学教授 小林敦子

本論文は、現代中国における教育と社会的不平等の再生産の構造を、農村の中学校における「中退」の要因分析に焦点化して、エスノグラフィーの手法を用いて明らかにしたものである。教育社会学の理論を幅広く学んだうえで、従来の研究の成果を批判的に継承しながら、筆者自身による新たな視点からの分析により、これまでの先行研究で、十分に論じられていなかった、中国の農村中学校の「中退」の学校内要因を丁寧に分析し、新たな知見を示すことに成功している。

本論文は、中国農村中学校に関するエスノグラフィーである第一部（第1章から第4章）と教師に関するエスノグラフィーである第二部（第5章から第7章）で構成されている。第一部は、A 中学校を事例とし、その「中退」者、在學生、「中退」リスクの高い生徒集団に焦点を当て、農村中学生の「中退」理由と進路希望、学校適応過程、及び「中退」後の経歴について検討している。第二部は、A 中学校の教師の指導文化とその特徴を、教室内の成績不振者への処遇の在り方と、そこに内在する理論について考察したものであり、その特徴をより明確にするための方法として、中国都市部の中学校（B 中学校）と日本の中学校（C 中学校）との比較の視点も含めている。

本論文は、「中退」という、現代中国の都市—農村格差の社会的不平等の再生産に関する問題を究明するうえで極めて重要で効果的な課題を設定したこと、それを都市部中学校や日本の中学校との比較の視点を加えた点で、研究の枠組みとして非常に優れている。調査方法も、中国東北部という沿海部とは異なり、学歴により農民の身分からの脱却を図ろうとする傾向が非常に強い地域で、「読書無用論」はなく、戸籍制度（二元化社会）の問題が集約的に表れている地域を対象にして、インタビューとアンケートを効果的に使用している。インタビューについては、教員や生徒のインタビューにとどまらず、「中退」者の追跡調査を行っている点は、この論文の特に優れている点のひとつとして評価できる。この調査より、子どもの学歴によって農民の身分から脱却を目指すものの、学業不振のために「中退」し、結果的に安定的な職業に就くことが困難な、中国農村の状況をリアルに分析することに成功している。

以上により、本論文では、大きくは、四つの新しい知見を提示した。第一点は、農民である親が子どもの教育に大きな期待を寄せていることを明らかにした点である。これは、従来から指摘されている、「読書無用論」が中学校の「中退」の大きな要因であるとの説を覆すものである。第二点は、「後列席」の学力不振の生徒に着目し、彼らが生徒集団や教師集団との関係において様々な戦略を駆使して、自分たちの居場所を確保していることを明らかにした点である。例えば、「笑いを取る」ことで他の生徒からの承認を得る、教師からの依頼を受け入れて下級生の秩序付けを行うといった戦略が、彼らが「中退」せず、学校に留まることを可能にするが、そうした彼らも進学を控えた最終学年には「中退」を余儀なくされる実態を見事に描き出している。第三点は、追跡調査の結果、成績不振で「中退」した子どもたちが、その後不安定な雇用状況にとどまっており、彼らの学力の不足が再教育の機会を不十分にしていることを明らかにした点である。「中退」が社会的不平等の再生産に直結することを、追跡調査で実証した点は本論文の特に優れた点と評価できる。第四点は、比較研究による、中国と日本との間の教師の指導文化の違いを質的調査の面からも明らかにし、理論化した点である。従来から指摘されている点ではあるが、中国農村部の教師が成績重視であり、成績不振者を排除の対象とするのに対して、日本では包摂していることを、質的調査を通して、改めて理論化することに成功している。これらにより、中国農村社会における教育と社会的格差の再生産の過程を見事に描き出した。

一方で、残された課題もある。第一点は、本論文の主たる対象の調査が2012年時点であるということ

である。変化の著しい現代中国である。調査以降にこうした状況がどのように変化したのかを明らかにする必要がある。第二点は、調査対象の中国東北部の X 郷の地域の特性が必ずしも正確に説明されていない点である。人口規模、主要産業、都市との距離、商品経済の流入の程度を含め、対象地域の地域的、歴史的な説明があった方がより説得力ある研究になったと思われる。第三点は、比較の対象とした、中国都市部の B 中学校、および日本の C 中学校についての、それぞれの代表性の問題である。本論文の考察の上で、どのような根拠のもとで、B 中学校を中国都市部の中学校の典型例としたのか、あるいは、C 中学校を日本の中学校の典型としたのか、この点が必ずしも明確になっておらず、研究の意図が分かりづらくなっている。総じて、中国農村中学校における教師の指導文化、生徒文化に起因する「中退」の実態は明らかにされたが、その要因はどこから来るのか、この点については、考察の対象となっていない。本論文の課題の中核をなす部分であると思われるの、劉氏の今後の研究課題として、その進展を期待するところである。

しかしながら、教師・生徒の相互作用の過程や「中退」した生徒の語りをデータにしつつ、教育社会学の理論や概念を駆使して、中国農村中学校にみられる高い中退率を生み出している学校要因をクリアに描き出した点で、本論文は優れた学術的成果を挙げたものとして評価できる。

よって本論文は、博士（教育学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

令和 2 年 1 月 3 日